

第2章 加賀市の水と緑の現状と課題

本市における水と緑の現状について、第1次プランの取組と、市民団体などのコミュニティ、公園、生物多様性の観点から現状を把握し、その課題を明らかにする。

1) 第1次プランから見る現状と課題

第1次プランでは、「ひろげよう暮らしのみどりもてなしのまち」をテーマに設定し、5つの基本方針を策定した。この基本方針の取組の現状を把握し、課題を抽出する。

| テーマ | 基本方針・施策 |
|-----------------------------|--|
| ひろげよう 暮らしのみどり もてなしのまち | 1 メリハリのある風景づくり【骨格づくり】 施策1-1：加賀温泉郷の玄関口にふさわしい魅力づくり（加賀温泉駅周辺の景観整備） 施策1-2：風景の骨格となる緑の連携軸づくり（風景の軸となる幹線道路の並木の育成や沿道景観の魅力づくり） |
| | 2 もてなしの風景づくり【温泉地等の観光地】 施策2-1：温泉街のもてなしを感じる風景づくり（温泉街の店先における通りの花飾等の推進等） 施策2-2：歴史的町並みのもてなしを巡る風景づくり（歴史的な建物や水路等の地域資源をつなぐ緑化の推進等） |
| | 3 地域を魅せる風景づくり【眺望（今ある緑を活かす）】 施策3-1：地域の風景を体験する道づくり（山並み等の特徴的な風景を望む道路環境の整備等） 施策3-2：地域の風景をつなぐ水辺づくり（湯や河川を軸とした桜並木の創出等） |
| | 4 暮らしを楽しむみどり【意識啓発、情報発信】 施策4：みどりを育む意識の醸成（身近な緑を楽しむ各種講習会等の開催、水や緑の風景を知る情報の発信等） |
| | 5 みんなでひろげるみどり【連携体制、活動】 施策5：活動団体の育成と連携の体制づくり（ガーデンシティ構想活動団体・サポーターへの登録推進等） |

1) - 1 実施施策に関する現状の把握

第1次プランの5つの基本方針に基づく実施施策について現状を把握する。

(1) 基本方針1 メリハリのある風景づくり【骨格づくり】

①取組：加賀温泉駅前の整備や国道8号の緑化

北陸新幹線加賀温泉駅舎の整備に合わせ、本プランを考慮した駅前整備を進めている。また、国道8号では、四車線化整備が進められており、これに伴い大型プランターの設置による緑化を実施し、沿線事業者等が水やり等の日常管理を行っている。



加賀温泉駅周辺の整備計画イメージ図



国道8号に設置したプランター

②国道8号緑化の管理状況

- 市からは花苗とプランターのほか、ジョウロと栄養剤を提供している
- 管理によって、綺麗に咲いているプランターもあれば、枯れているものもある



国道8号沿いのプランター管理状況

③国道8号沿線事業者へのヒアリングから見る現状

- 植物に関する情報が一切なく（品種もわからず）維持管理方法がわからない
- 水栓などが近くにないため、支給品のジョウロだけでは水やりが大変であり、継続的に管理を行うのは難しい
- なぜこのプランターを育てているのか、目指している方向性が不透明

(2) 基本方針2 もてなしの風景づくり【温泉地等の観光地】

①取組：温泉地や商店街等の景観づくり

温泉街をはじめとする市街地において、住民や事業者がハンギングバスケットやプランター等の設置による緑化を図っている。



大聖寺駅前通りの緑化イメージ図

②温泉街や商店街等における緑化状況

- 温泉街や商店街等の緑化を推進するため、市から重点的に花苗の支援を行っている
- 緑化管理は各温泉地や商店街等の地域の方々で行っている



山中温泉ゆげ街道の緑化状況



大聖寺駅前通りの緑化状況

③商店街へのヒアリングから見る現状

- 自主財源（商店街予算）が単年度であるため、希望の苗を購入しにくい
- 加賀市が目指す温泉地等の景観の方向性がわからない
- 商店街コミュニティに入る若手が少なく、活動人材の固定化が起きている

(3) 基本方針3 地域を魅せる風景づくり【眺望（今ある緑を活かす）】

①取組：自然や眺望を活かした視点場等の整備

柴山潟周辺を散策できる遊歩道や、柴山潟の水辺空間と白山を眺望できる広場を整備している。



柴山潟の遊歩道



白山眺望広場

②眺望の現状

- 加賀市特有の緑や生活の風景の一つである丘陵地や田園を有しているが、建物や屋外広告物等によって眺望が妨げられており、十分にその風景を活かしきれていない



片山津 IC 出口からの風景



大聖寺川付近からの田園風景

(4) 基本方針4 暮らしを楽しむみどり【意識啓発・情報発信】

①取組：SNSによる情報発信や講座の実施

SNSによる緑化活動の情報発信のほか、花や緑に関する講座開講により意識啓発を行っている。



SNSによる花と緑の情報発信



ハンギングバスケット教室の開講

②意識啓発等に関する現状

- 花と緑に関する講座を年約4回開講している
- 花と緑に関する情報を掲載した「もてなしガーデナー通信」を年約5回発行している
- ローカルメディアを活用した広報の実績はない



バラの育て方講座



もてなしガーデナー通信

③ヒアリングから見る現状

- 緑や花の知識を共有する機会や、団体の緑に関する活動情報を発信する機会がない
- ガーデンシティの取組を知らなかったという市民が多く見られる
- お花を植える活動だけだとあまり興味を持たないという市民が多く見られる

(5) 基本方針5 みんなでひろげるみどり【連携体制・活動】

①取組：ガーデンシティ構想推進団体制度の創設

緑化推進団体「もてなしガーデナー」の登録制度を創設し、もてなしガーデナーに対し、花と緑に関する情報発信や花苗の支援を行っている。



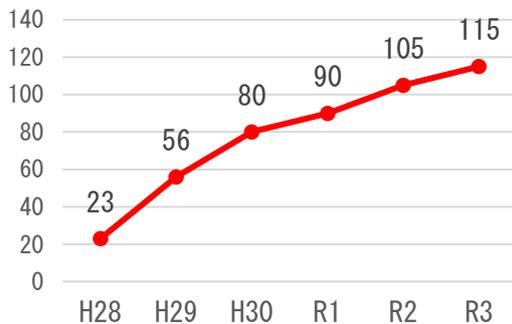
もてなしガーデナーの登録推進



もてなしガーデナーへの花苗支給

②推進団体等に関する現状

- もてなしガーデナーの登録数が令和3年度末では115組となっている
- もてなしガーデナーに対し、春と秋の年2回、花苗支給の支援を行っている



もてなしガーデナー登録者推移



花苗支援による緑化

③ヒアリングから見る現状

- 現状では花苗の配布のみで、維持管理に関する助成がない
- もてなしガーデナー同士の交流は個人（各団体内）のみで、もてなしガーデナー全体としての交流の機会がない

1) -2 実施施策に関する課題の抽出

第1次プランの基本方針に基づく実施施策について主な課題を抽出し、以下の通りまとめる。

(1) 基本方針1 メリハリのある風景づくり【骨格づくり】

- 加賀温泉駅前のガーデンシティを意識したもてなし空間の創出
- 目指している方向性の共有不足
- 管理に関する情報や設備が不十分で継続的な維持管理が困難

(2) 基本方針2 もてなしの風景づくり【温泉地等の観光地】

- 新たな担い手がないことによる活動人材の固定化
- 加賀市が目指す温泉地等の景観の方向性の共有不足

(3) 基本方針3 地域を魅せる風景づくり【眺望（今ある緑を活かす）】

- 加賀市特有の風景を活かしきれていない
- 屋外広告物等の人工物によって眺望が妨げられている

(4) 基本方針4 暮らしを楽しむみどり【意識啓発・情報発信】

- 市民への啓発が不十分で、ガーデンシティの取組がまだ広く認知されていない
- ローカルメディアとの連携が少ない

(5) 基本方針5 みんなでひろげるみどり【連携体制・活動】

- 緑のコミュニティ同士が交流する機会がない
- 助成がないと継続的な活動が困難

2) 水と緑に関わるコミュニティの現状と課題

緑化推進団体（もてなしガーデナー）以外の水と緑に関するコミュニティや市民団体、施設管理を行う事業者に対して行ったヒアリングの結果を基に、活動の活性化や新しい連携体制の構築に向けた現状と課題を抽出する。

ヒアリング団体の概要

| ヒアリングを行った各種団体 | 団体活動内容・ヒアリングの目的 |
|----------------|--|
| 地域自然活動団体 | 地域固有の自然を保全、活用しながら活動する団体である。現状では、もてなしガーデナーに登録していないため、ガーデンシティ構想に関する認識や各団体の活動内容や課題等を把握し、今後の連携の可能性を探るため、ヒアリングを行った。 |
| かもワーク制度協力団体（※） | かもワーク制度に登録し、公園緑地を積極的に管理する団体である。実際に緑地の管理に取り組む市民団体の現状と課題を把握し、市民による緑地管理の可能性を探るため、ヒアリングを行った。 |
| 市民活動団体（育児系団体） | 緑化や花植えなど緑の活動は行っていないが、子育て世代の目線でまちづくり活動を行なっている市民団体である。また、公園をイベント等で利用しており、今後の連携の可能性を探るため、ヒアリングを行った。 |
| 造園業者 | 市から公園緑地の植栽管理等の業務委託を受けている事業者である。公園管理に関わる専門家としての課題意識や今後求められる公園需要をヒアリングすることで、今後のガーデンシティ構想推進プランの方向性を探る。 |

地域自然活動団体

| | | |
|---|---|---|
|  |  |  |
| <p>錦城山城址保存会</p> <p>毎週日曜日に錦城山（大聖寺）の竹林等の管理・清掃や錦城山のツアーイベントなどを行う。</p> | <p>柴山潟流域環境保全対策協議会</p> <p>柴山潟の水質調査や生態系の調査を担う。清掃活動も今後行う予定。</p> | <p>のぎくの会</p> <p>三谷地区を活動拠点とし、加賀市の山で野草を採取し、販売を行う。</p> |

※かもワーク制度協力団体

平成16年4月に制定された、公園や河川敷などの公共施設を自治会や地域の市民団体が管理するアダプト・プログラム制度。活動団体数は29団体、合計参加者数は5,449人（令和4年9月時点）

2) -1 ヒアリングから見る現状

水と緑に関するコミュニティ団体等へのヒアリングにより把握された現状について、以下の通りまとめる。

(1) 地域自然活動団体

- 自然活動に関わりたいと思ってもらえる情報発信が不足しており、メンバーの固定化・高齢化が起きている
- 新しい維持管理方法の検討が必要

(2) かもワーク制度協力団体

- 町内活動として活動参加者に役割を与えるなど、担い手をつくる仕組みがあるため、活動が継続できている団体もある
- 担い手となる若い世代に対し、取組状況の周知が不足している
- 管理している緑地を子どもたちが安心して遊べる場として活用している

(3) 市民活動団体

- 公園でイベントを開催する際の行政への手続きが難しく、自由に活用できる仕組みがない
- 公園や空き地等で子どもたちの遊び場を自分たちでつくる機会がない
- 公園等に集まる機会がなく、保育園がない地区では地域の連携が取りにくい
- 自分の家でも空き地を持っているが、活用する機会がない

(4) 造園業者

- 地元のニーズに合っていない公園が多く、利用者が少ない
- 子育て世代が利用したくなる公園が少ない
- 加賀市の将来の緑はどうあるべきか等について話し合う機会がない
- 公園管理の成功事例が色々な地域で活かされていない

2) -2 コミュニティに関する課題の抽出

水と緑に関するコミュニティについて主な課題を抽出し、以下の通りまとめる。

- メンバーの固定化・高齢化が進んでおり、それに伴い担い手が不足している
- 活動に興味湧くような発信ができていない
- 公園利用の行政手続きを簡単・スムーズにする仕組みがない
- 利用者のニーズと合っていない公園が多い
- 他団体等と情報を共有する機会がない
- 地域住民が公園等を有効に活用できていない

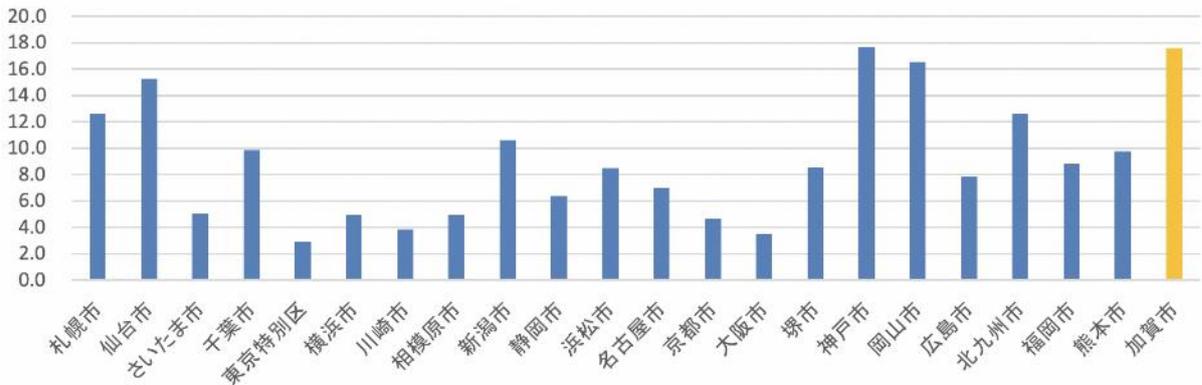
3) 公園の現状と課題

本市の公園緑地に関するデータの分析を基に、公園緑地の現状と課題を抽出する。

3) - 1 公園緑地面積の比較と設置年別の公園緑地の割合

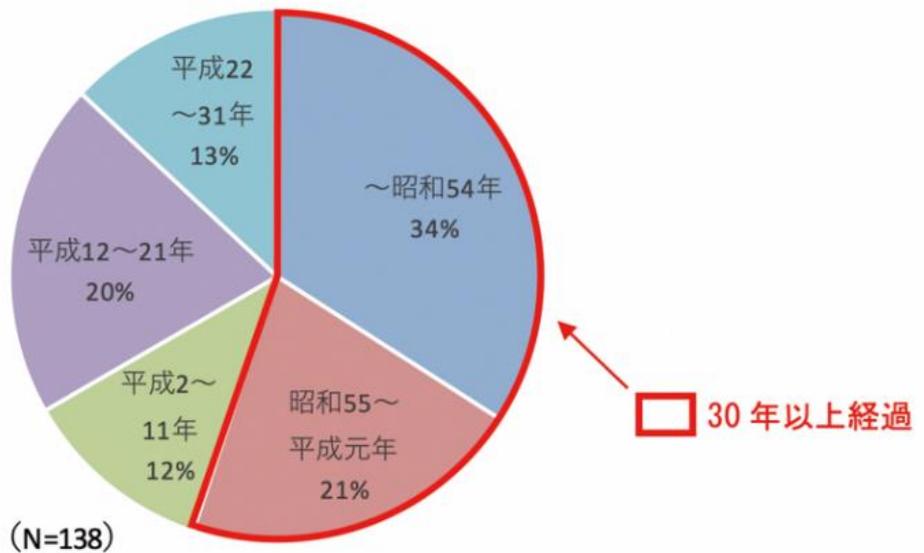
本市の市民一人あたりの公園緑地の面積は 17.6m²/人（令和4年3月末時点）であり、大都市・中核都市と比較すると大きいことがわかる。人口減少が進む中、この傾向はより強まっていくと見込まれる。一方で、設置年別の公園緑地の割合を見ると平成元年より前に設置した30年以上経過している公園緑地が全体の半数以上を占めている。

【政令指定都市と加賀市の市民一人当たりの公園面積】



出典：都市公園データベース

【設置年別の公園緑地の割合】



出典：加賀市緑の基本計画

3) -2 公園緑地管理費の推移

現在、本市で公園緑地の管理に充てられる予算は年間約1億円前後で推移している。

また、そのうち年間約3700万円が老朽化した公園施設の更新や補修費に使われている。

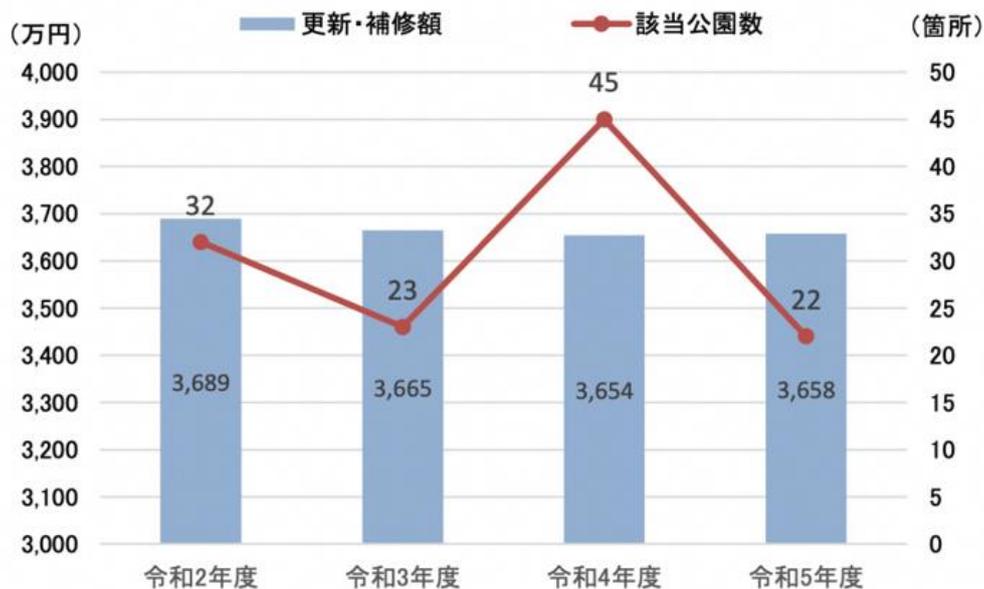
人口減少や公園施設の老朽化が進み、更新・補修が定期的に発生するなか、市民一人当たりが負担する公園緑地管理費は増加していくと見込まれる。

【一人当たりの公園緑地管理費】



出典：加賀市の公園緑地管理費及び加賀市人口データ

【更新及び補修費の推移と内訳】



出典：加賀市緑の基本計画

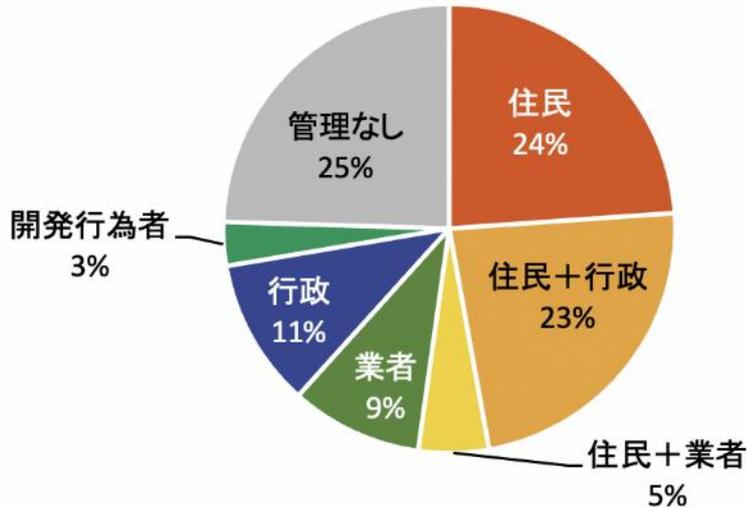
3) -3 公園の管理状況

本市の公園管理に関する現状を把握する。

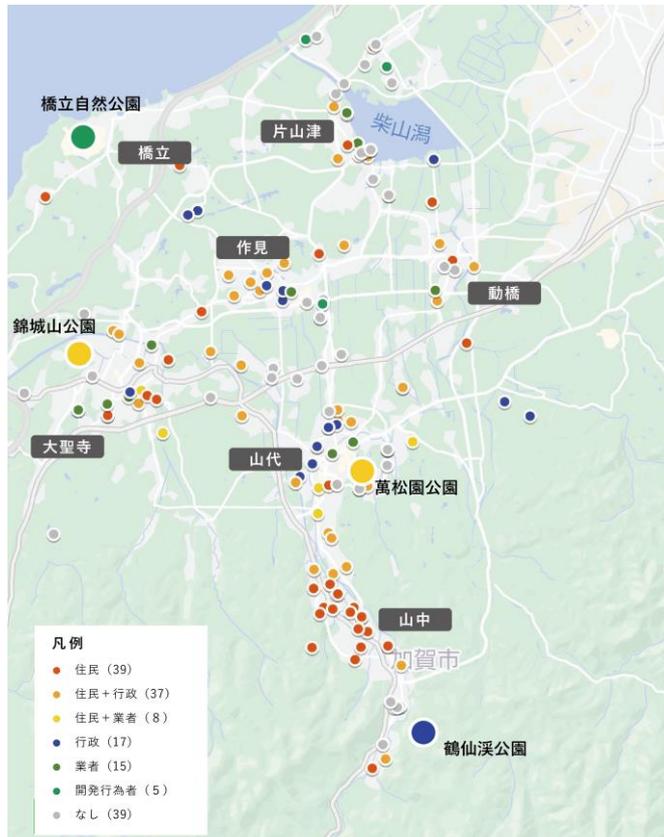
(1) 管理主体別の公園分布

本市には現在 159 箇所（都市公園 61 箇所、その他の公園 98 箇所）の公園があり、管理については、かもワーク制度の運用等で、市民が参画し、清掃活動や芝刈り等を実施している公園は全体の 52%である。

【公園の管理主体の割合】



【管理主体別公園分布図】



(2) 住民主体で管理している公園の現状（かもワーク制度）

現在、かもワーク制度で登録されている29団体のうち、公園管理を行っている団体は27団体あるが、適正に管理されていない公園が見受けられる。

公園で自主的活動を行っている登録団体への団体活動のモチベーションを維持する取り組み支援がない。

砂走公園あいあい広場

まちづくり推進協議会が管理し、場所や植栽の名前を示すサイン等の設置を積極的に行っている。

見晴台公園

地域住民が管理し、芝の管理をはじめ、さまざまな管理を行っている。



砂走公園あいあい広場



見晴台公園

3) - 4 公園に関する課題

本市の公園に関する主な課題を抽出し、以下の通りまとめる。

- 公園施設の老朽化の進行に伴い、維持管理費の増加が見込まれる
- 維持管理費の増加により、活用に対する費用が不足
- 適切に管理されていない公園がある

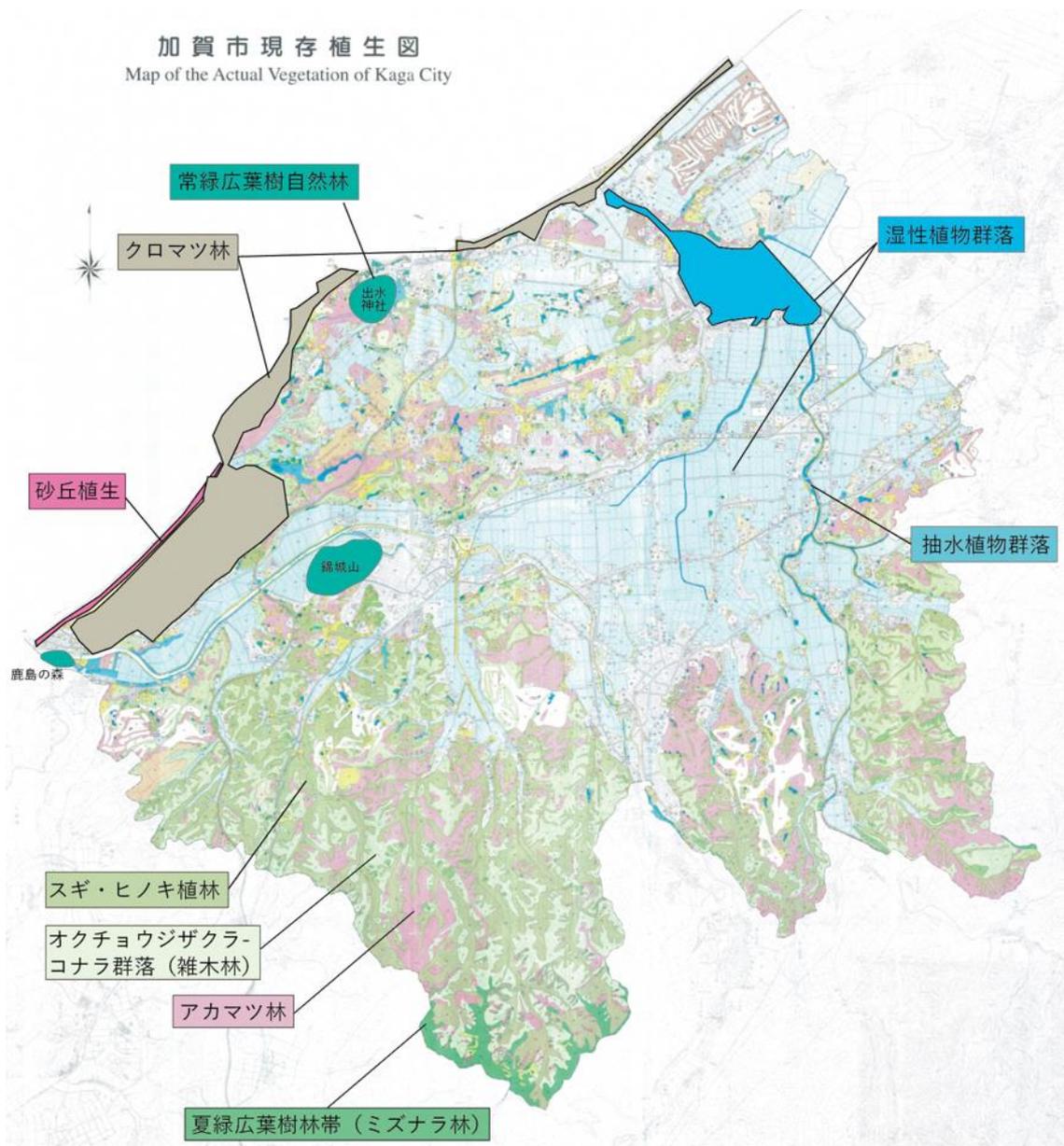
4) 生物多様性に関する現状と課題

SDGs 等の関心の高まりから本市の生物多様性や環境についての現状と課題を抽出する。

4) -1 本市の植生の現状

社寺林など文化の基盤としての自然林、水辺の湿性植物群落、山の夏緑広葉樹林、海岸の砂丘植生とマツ林など、海から山まで極めて多様な植生に覆われている。

【現存植生図】



出典：『加賀市の植生-緑を基礎とした環境創造・整備のための植生生態学的提言-』

(宮脇昭ら, 2002. 3)

【現存植生の凡例】

| 植生分類 | エリア | 生態系 |
|--------------------------|------------------------|--|
| 常緑広葉樹自然林 | 鹿島の森・出水神社・横北白山神社・錦城山など | タブノキ、スダジイなど |
| 湿性植物群落 | 柴山潟を初めとした止水域、休耕田、低湿地 | ヨシやヒルムシロクラス、キヤガラ、マコモなど、野鳥の生育場所 |
| 夏緑広葉樹林帯 | 刈安山・鞍掛山 | ミズナラ・エゾユズリハ・オオバクロモジなど |
| 砂丘植生 | 塩屋海岸・片野海岸など | ハマボウフウ・イソスミレなど |
| クロマツ林 | 塩屋海岸・片野海岸 | クロマツ及びアカマツ。その植林方法のユニークさから、海岸砂防林形成史上の記念碑的存在となっている |
| スギ・ヒノキ植林 | 山間部 | 加賀市の針葉樹植林はほとんどがスギである。 |
| オクチョウジザクラ-コナラ群落 (雑木林) | 山間部 | 夏緑広葉樹二次林。ヒメアオキ、ツルアリドオシ、オオバクロモジなどが分布 |
| アカマツ林 | 海岸部及び山間部 | マツタケなどのキノコ類やハルゼミなどの昆虫が分布している |
| 抽水植物群落 | 河川部 | コカナダモ、オオカナダモ、ヤナギモなどが生息 |

出典：『加賀市の植生-緑を基礎とした環境創造・整備のための植生生態学的提言-』

(宮脇昭ら, 2002. 3)

4) -2 本市における動植物種数の現状

各年の調査結果を比較すると、多くの種においてその種数は横ばいもしくはやや減少傾向が見られる程度であるが、近年「その他の昆虫など」や「陸生植物」の種数に大幅な減少が見られる。

【本市における調査年ごとの動植物種数】

| | 1957年 | 2009年 | 2015年 |
|----------|-------|-------|-------|
| 魚類 | 93 | 117 | 107 |
| 両生類 | 12 | 16 | 15 |
| 爬虫類 | 5 | 7 | 8 |
| 貝類 | 24 | 12 | 17 |
| 水生昆虫 | | 44 | 39 |
| その他の昆虫など | 236 | 805 | 366 |
| 鳥類 | 188 | 178 | 179 |
| その他の動物 | | 28 | 24 |
| プランクトン | | 36 | 46 |
| 水生植物 | 79 | 77 | 69 |
| 陸生植物 | 473 | 1843 | 679 |
| 菌類・苔類 | 5 | 20 | 22 |
| 合計 | 1,115 | 3,183 | 1,571 |

出典：『加賀市の植生-緑を基礎とした環境創造・整備のための植生生態学的提言-』

(宮脇昭ら, 2002. 3)

4) -3 生物多様性に関する課題の抽出

本市の生物多様性に関する課題を抽出し、まとめる。

- 多様な動植物が現存しているが、種数は減少傾向にある

5) 課題の整理

社会情勢や、本市の水と緑の現状の把握により抽出された課題から、10個のキーワードを抽出する。

| 社会情勢から抽出された課題 | キーワード |
|---|-------|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 新しい生活様式において、公園は健康的な生活を支える空間として積極的に活用するよう推進されている | ➡ ①健康 |

| 水と緑の現状の把握により抽出された課題 | キーワード |
|--|--------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 新たな担い手がないことによる活動人材の固定化 ● メンバーの固定化・高齢化が進んでおり、それに伴い担い手が不足している | ➡ ②人材・担い手不足 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 管理に関する情報や設備が不十分で継続的な維持管理が困難 ● 助成がないと継続的な維持管理が困難 ● 公園施設の老朽化の進行に伴い、維持管理費の増加が見込まれる | ➡ ③維持管理の継続 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民が公園等を有効に活用できていない ● 利用者のニーズと合っていない公園が多い | ➡ ④緑に対する価値観のアップデート |
| <ul style="list-style-type: none"> ● ガーデンシティを意識した加賀温泉駅前整備 ● 加賀市特有の風景を活かしきれていない ● 屋外広告物等の人工物によって眺望が妨げられている | ➡ ⑤景観改善 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 緑のコミュニティ同士が交流する機会がない ● 他団体等と情報を共有する機会がない | ➡ ⑥住民同士の交流機会の不足 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 目指している方向性の共有不足 ● 加賀市が目指す温泉地等の景観の方向性の共有不足 ● 市民への啓発が不十分で、ガーデンシティの取組がまだ広く認知されていない ● ローカルメディアとの連携が少ない ● 活動に興味を湧くような発信ができていない | ➡ ⑦発信と認知度の不足 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 公園利用の行政手続きを簡単・スムーズにする仕組みがない ● 利用者のニーズと合っていない公園が多い ● 適切に管理されていない公園がある | ➡ ⑧活用されるための制度設計 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 維持管理費の増加により、活用に対する費用が不足 | ➡ ⑨活用する費用の不足 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 多様な動植物が現存しているが、種数は減少傾向にある | ➡ ⑩生物多様性の保全 |